

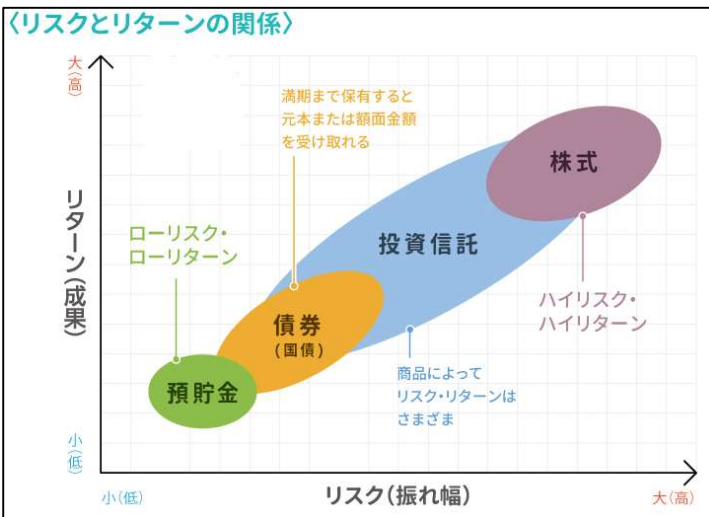
お金の心配は、世代を問いません。20 才代～30 才代の方は結婚や住宅購入、30 才代～40 才代では住宅に加えてお子さんの教育費、50 才代以上の方は老後資金や家のリフォームに親の介護など、どの世代でもお金の不安や心配があるかと思います。

過去 20 年間、日本は給料も金利が上がりませんでした。マイナス金利となってから、預貯金ではお金を増やせません。そうすると、お金を増やす方法は限られます。それは、「お金に働いてもらう」という方法です。お金を増やすためには、下記の三つの方法しかありません。

①収入を殖やす、②支出を減らす、③運用して殖やす

①や②は、いくら頑張っても限界があります。③が「お金に働いてもらう」ということです。お金は自分からは働いてはくれません。お金を持っているあるあなたが指示を出してはじめて働いてくれるのです。みなさんが寝ているときも、お金は働いてくれます。

さて、金融商品では、リスクとリターンという言葉を使います。一般的にリスクとは「危険なこと」という意味で使われますが、金融の世界でリスクとは「リターンの振れ幅」のことです。そしてリターンとは、「資産運用で得られる成果(利益)」のことです。



つまり、「リスクが大きい」とは、「大きくもうかるかも知れないが、大きく損する可能性もある」ということです。

ちなみに、「リスクがなくてリターンが高い＝ローリスク・ハイリターン」という金融商品は存在しません(もしそんな商品があれば、世の中の人全員が買いますね)。

預貯金だとリスク(銀行がつぶれたりする可能性)はとても低いけれど、リターン(利子)もとても小さい。「債券」は誰かにお金を貸すことで、

「国債」を買うということは、みなさんが国にお金を貸すということです。国がつぶれない限り利子は受け取れますが、やはり利子はわずかです。

お金を大きく増やそうと思えば、株や不動産、FX や仮想通貨になります。その中で、一番歴史が古くて理論や経験知が充実しているのが「株」です。

株はハイリスク・ハイリターンで、すごくもうかることもあれば大きな損をすることもあります。そこで、色々な株を厳選して分散投資すると、理論的にミドルリスク・ミドルリターン(リスクを抑えつつ最大のリターンをめざす)ことが可能になります。ただ、素人の私たちはそれが難しいですね。そこで私たちが変わって、プロに株や債券の運用を任せるのが「投資信託」です。

プロに任せるとお金はかかりますが、みなさんが運用するよりも確実に成績は良くなります(良い成績を上げられるから、プロとしてやっていけるのです)。ではプロは、なぜ他人のお金の運用までしてくれるのか?それは、多くのお金があればあるほど投資先を多く分散(リスク分散)でき、利益増大も見込める、そしてプロもそれで稼げるからです。

投資信託のプロは、リスクとリターンが最適になるような組み合わせを毎日見直しますので、皆さんは何も

する必要がありません。銀行の預金よりもお金に働いてもらいたいなら、毎月 1,000 円からでも積み立てるタイプの投資信託から始めてみてはどうでしょうか。投資信託は、証券会社(ネット会社が手数料が安い)です)で申込できます。

さらに、投信信託に「保険」をつけたものが変額保険(有期型)です。投資信託だけだと、病気で働けなくなって積み立てができなくなったらそこで終わりです。しかし変額保険(有期型)だと、三大疾病になったら保険料が免除になって契約は続き、満期金が受け取れます。本人が死亡・高度障害になると、保険金が満額支払われるので、掛け捨てになりません。

国も、個人が投資しやすいように、税制上の優遇策を作っています。iDeCo(イデコ:個人型確定拠出年金)や NISA(ニーサ:少額投資非課税制度)です。これらへの投資でももちろんOKです。とにかく国は、「皆さんもっとお金を運用

して下さい、そうでないとみなさんの老後のお金は足りませんよ」と言っているのです(これが老後 2,000 万円問題ですね)。

例えば、35 才の方が月々3 万円ずつ、投資信託(年利率 3%の複利運用)の積立を 25 年間続けたら、60



才には約 1,338 万円になります。支払ったお金は 900 万円(3 万円×300 カ月)なので、400 万円以上の利益が出ていることになります。普通預金ではとても増やせない金額です。しっかりお金に働いてもらった結果、と言えます。

お金がなくても不幸せとは限りませんし、幸せはお金では買えませんが、お金が心配ならば自分で勉強して運用していくか、あるいは運用をプロに任せるか、どちらかしかありません。三宅保険事務所では、みなさんの心配を安心に変えるお手伝いをしています。皆様からのご相談を承ります。

資産運用の基本

①短期ではなく長期で増やす(最低 10 年以上、できれば 20 年以上)

- ・短期で増やそうとするのは「ギャンブル」。増えるかも知れないが、損する可能性も高い。
- ・人口が増える限り、経済は成長する。人口が増えている国を中心に、経済は成長を続ける。
- ・成長国を中心に運用すると、途中で浮き沈みがあっても、20~30年で結局はプラスになる。

②集中投資ではなく分散投資(卵を一つのカゴに盛らない)

- ・集中投資をして予想が当たれば利益は大きいですが、失敗したらすべて失う。予想はプロでも難しい。
- ・対象を分散することで、リスクを分散できる。

③まとまったお金があってもなくても、少しずつ運用する(毎月コツコツ)

- ・買い時のピークなら、お金をまとめて投資すべき。しかし、ピークかどうかは誰にもわからない。
- ・まとめて投資してしまうと、市場が下がったとき(それが投資のタイミング)に買えない。
- ・少しずつ積み立てる(投資する)ことで、「買い付け額」を平均化できる。積立なら誰でもできる。

株式市場に働く浄化作用:銘柄の新陳代謝

利益成長できない企業が退出、新たな利益成長企業が参入する。
その結果、市場が長期的に上昇を続けます。

